みず・まち・自然　エンジョイ！米子

広報よなご

7

2020 July
No.184

◎ 特集

プラネタリウム・リニューアル！

●特集

プラネタリウム・リニューアル！

米子市児童文化センターのプラネタリウムは、1983年に開設して以来、多くの子どもたちの宇宙への夢や興味を育んできました。しかし、設置から37年が経過したことから、米子市にいただいたふるさと納税を財源に今回のリニューアルに至りました。これまでの生解説による投影スタイルを継承するとともに、より一層多彩な上映内容としました。また、プラネタリウムを幅広い世代の方々に利用していただくため、本物のような星空を再現する光学式プラネタリウムと迫力ある映像を投影する全天周デジタル映像システムを導入しています。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、リニューアルオープンを2か月間延期していましたが、いよいよ6月28日から皆さんにご覧いただくことができます。新しいプラネタリウムは、本物のような美しい天の川や、親子で楽しめる番組など、見どころがたくさん。ぜひ児童文化センターにお越しください！

最新の光学式プラネタリウム　オルフェウス

新しくなった投影機はとてもコンパクトな設計で、これまでの半分以下の大きさになりました。客席からドームを見上げた時に、視界を妨げにくく、臨場感あふれる星空を楽しむことができます。そんな小さな体ですが、肉眼で見ることのできる6.5等星までの約9,500個の星を映し出すほか、約800万個の星の集まりで緻密な天の川を再現します。最新の光学式プラネタリウムによる、本物のような美しい星空をぜひご覧ください。

画像提供：五藤光学研究所

大迫力の全天周デジタル投影システム バーチャリウムX

光学式プラネタリウムの映し出す星空に、朝夕焼けや米子の景色を重ねて投影することができ、迫力ある全天周映像も映し出せるのがデジタル投影システムです。光学式プラネタリウムが、地上から見える星空を再現するのに対し、デジタル投影システムは宇宙空間の中を自由に旅しながら、私たちの住む地球を見下ろすこともできます。さらに、米子城跡や皆生温泉など、米子市の各地で撮影した映像をドーム全体に再現します。

画像提供：五藤光学研究所

光学式プラネタリウム「オルフェウス」
画像提供：五藤光学研究所

あらゆる客層やニーズに対応する各種設備

プラネタリウムシステムの改修に合わせて内装を一新。大山の緑と日本海の青をイメージしました。
照明設備や音響設備の更新に加え、座席は幅を広くしリクライニング機能を有したシートに更新。小さな子どもでも観覧しやすいチャイルドクッションや、車いすのまま観覧できる移動席を新たに設置。どの席からでも番組音声を聞くことができる聴覚障がい者向けの補聴システムなど、バリアフリーの設備が充実しています。

画像提供：五藤光学研究所

幼児から大人まで楽しめる充実したコンテンツ

幼児番組、ファミリー向け番組、一般向け番組、学習番組など、ニーズに合わせたコンテンツが充実。施設職員による星空解説と共に、これらのコンテンツをお楽しみいただけます。

名探偵コナン「星影の魔術師」

◆STORY
JAXA がこれまでの宇宙探査の成果を発表する一大展示会を開くことになった。
その目玉は全て宝石でできた太陽系儀「輝きの天球」。鈴木次郎吉が提供した至宝へ、怪盗キッドから予告状が届いた。警備を依頼されるのは、毛利小五郎。小五郎と共にJAXA へやってきた少年探偵団とコナン。向田千夏宇宙飛行士と研究員の酒本博士から最新の宇宙探査の成果を聞いていると、突然あたりが停電し、非常ベルが鳴った！
果たして今度こそ、怪盗キッドを捕まえることができるのだろうか！？
TV や映画でおなじみの名探偵コナンがついにプラネタリウムに登場。満天の星空の下で繰り広げられるキッドとコナンの対決。乞うご期待！

© 青山剛昌／小学館・読売テレビ・TMS 1996

新型コロナウイルス感染防止のため予約が必要です！

皆さんに楽しんでいただけるよう、手すり等の消毒や換気など、新型コロナウイルスの感染防止対策を行います。また、お客様の密接を避けるため、しばらくの間は入室定員を制限し、予約制とさせていただきます。投影時間等は児童文化センターホームページをご確認ください。
▶**予約方法**　児童文化センターへの電話、もしくは来館での受付
問米子市児童文化センター（☎ 34-5455、FAX 31-1060）

米子市児童文化センターホームページ

より愛される〝じどぶん〟になって

今でもしょっちゅう
“じどぶん”に来ます

播間（はりま）さん

幼いころから児童文化センターに通い、今も休日にご家族を連れてセンターを利用する播間（はりま）さんに当時の思い出や今のお気持ちを伺いました。

もう一つの学校

僕が小学校5年生のときにじどぶん（児童文化センターの通称）ができたのですが、今でいう「もう一つの学校」のような存在でした。学校から帰ったら、玄関にカバンを投げて、そのままじどぶんに行くという感じで。じどぶんに来れば、友だちやほかの学校の子どもたちとも一緒に遊ぶことができました。

星座は自由に想像して

子どものころの思い出で一番印象に残っているのは、プラネタリウムの解説員・塚田さんの解説です。特に思い出すのは、「星座は、皆が自由に想像することが正解なんだよ」と教えてもらったこと。例えばさそり座を見ても、星が並んでいるだけで、なかなかさそりには見えない。でも、「さそりの絵に当てはめるのではなく、実際に星を見てどんな星座に見えるか、自由に想像してください。クマだとか、フックだとか、違うものに見えても、それでいいんだよ」と。想像力をかき立てられたし、すごく学びになりました。プラネタリウムを見たその日の夜には、いつも星空を見上げて色んな星座を想像していました。

より愛されるものに

このたび、プラネタリウムがリニューアルするということで、最新の設備でまた新たな体験ができるのが楽しみです。また、そのリニューアルにかかったおよそ1億8千万円というお金は、ふるさと納税でまかなわれたと聞きました。市外にお住まいだけど、米子を大事に思ってくださっている方々の思いと寄附のおかげで、米子の子どもたちがプラネタリウムを通じて色々なことを学ぶ機会をいただいたことを、米子市民、またじどぶん利用者のひとりとして、心から感謝をしています。そして、このリニューアルをきっかけに大勢の方に来てもらい、より愛されるじどぶんになって、100年続いてもらいたいと思います。

じどぶん思い出アルバム

プラネタリウム室の外壁に銅板を貼る前の様子

竣工式のパレードはたくさんの市民が参加した

オープン当初のプラネタリウムには長蛇の列

オープンから37年間、活躍してきた投影機

星空へ誘う解説が魅力的で何度もプラネタリウムへ足を運びました

―米子市出身で、かつては児童文化センターの天文クラブにも所属し、現在 JAXA 宇宙科学研究所にお勤めの生田ちさとさんに、プラネタリウムの思い出や、宇宙の魅力などのお話を伺いました。

星空へ誘われた思い出

子どもの頃から好奇心旺盛で、宇宙だけでなく、植物や動物にも興味がありました。児童文化センターのプラネタリウムもよく見に行きましたが、特に印象に残っているのは、解説員の塚田さんによるライブ解説です。その時その時に合わせて、見学者を星空へ誘う解説が魅力的で、何度もプラネタリウムへ足を運びました。小学生の頃、初めてプラネタリウムを見たときは、椅子がぐっと後ろに倒れることに驚き、投影された星空が回っているのに地面が回っているように錯覚してびっくりしたことも記憶に残っています。今、思い出すと懐かしいですね。プラネタリウムの星空解説では、とても簡単に星座を見つけるのですが、実際の夜空で見つけようとすると難しく、しばらくは四苦八苦していました。

宇宙の魅力

現在、わたしは科学研究や探査ミッションを行っているＪＡＸＡ宇宙科学研究所で、広報普及主幹として研究成果を皆さんに伝える仕事をしています。宇宙に興味が強くなり、天文学を専攻しようと決めたのは、大学に入ってからです。私が宇宙にひかれる理由は、人間の手が届かないから、でしょうか。私の場合は、太陽系内など近くの宇宙に興味はさほどなく、何百万光年遠くの宇宙にある天体が不思議で、どのような天体なのか、どう進化するのかに興味があります。そして遠い宇宙で輝く天体の画像は、見飽きることがありません。

プラネタリウム活用法

児童文化センターのプラネタリウムのおすすめポイントは、コストパフォーマンスの高さです！気分転換として、リラックスするためにプラネタリウムは手軽な方法だと思いますので、堅く考えずに、とりあえず見ていただければうれしいです。宇宙に興味がなくとも、ぼーっと星空を眺めれば、見る前とは違ったよい気分になれます。もちろん、プラネタリウムをきっかけに宇宙に興味を持っていただければ、もっとうれしいです。また、プラネタリウムを活用することで、楽しく理科の天文分野の学習ができると思います。

Profile
生田　ちさと
JAXA 宇宙科学研究所准教授／広報普及主幹。米子市出身。昨年には米子市児童文化センターへ寄付金をいただき、同センターの天体望遠鏡接眼部に設置するカメラやパソコンなどの設備を導入することができました。